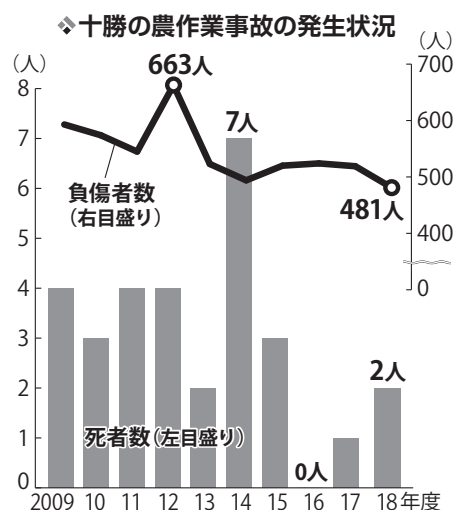


最も多かったのは空知と宗谷管内の各3件・3人だった。負傷事故は前年度より4人少ない2148人。家畜による事故が774人、農機によるけがは663人だった。

農作業の死亡事故は全国で年間約350件発生しており、10万人当たりの死亡事故では建設業の倍以上。9、10月は道や同本部が秋の農作業安全運動を実施している。

事故の背景について同本部は『『うっかりミス』や『慣れ』による作業機の横転、サイドブレーキのかけ忘れなど油断や不注意がある』とし、収穫繁忙期を前に注意を呼び掛けている。



道開発予算にかんがい排水事業 更別、鹿追で調査着手 水害対策、早期着工に期待

2019年12月21日

20日に閣議決定した2020年度の道開発予算案で、国営かんがい排水事業の新更別地区（更別村）と笹川地区（鹿追町）の調査費が盛り込まれた。排水路整備を行うための事業計画書案を作成する。地域にとって排水対策は喫緊の課題で、早期着工が期待される。

来年度から調査に着手する。いずれも調査費は公表していない。

新更別地区では小麦、ビート、ジャガイモなどを生産。国営札内川第二土地改良事業（1996～2017年）により一部で排水路が整備されているが、基幹的な排水施設がなかった。近年は降雨量が多く、過去10年で4回、農地の湛水（たんすい）が発生している。

受益面積は2900ヘクタール（109戸）を見込み、排水路の新設、下流排水路の改修を行う。

更別村では5月に国営土地改良事業新更別地区整備促進期成会を立ち上げ、2度中央要請を展開。西山猛村長は「3年前の台風災害では、湛水被害が大きかった。五十数年来の悲願達成に向けて大きな一歩。早期の着工を期待したい」と語る。

笹川地区はジャガイモ、ビート、小豆などを生産。一部で排水網が形成されているが、基幹的な排水設備がなく排水能力が不足している。16年台風で農地が冠水する被害が生じ、防災・減災面から排水機能の強化が求められている。受益面積は概数で750ヘクタール（49戸）。

喜井知己町長は「地区の要望もあり、基幹となる排水路の整備を国に求めている。調査に着手されることになり、ありがたい」と話している。

管内では今年度、新川二期（豊頃、幕別）、十勝川左岸二期（音更、清水、芽室）で、国営かんがい排水の調査が行われている。

